

平成 23 年度第 1 回常務理事会議事録

日 時：平成 23 年 5 月 20 日（金）15：00～17：20

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：吉村 泰典

副理事長：落合 和徳、和氣 徳夫

理 事：岩下 光利、岡井 崇、嘉村 敏治、吉川 史隆、小西 郁生、櫻木 範明、星合 昊、
吉川 裕之

監 事：岡村 州博、星 和彦、丸尾 猛

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、久具 宏司、小林 陽一、榊原 秀也、下平 和久、
高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、阪埜 浩司、増山 寿、渡部 洋

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：荒木 信一、桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名全員が出席し定足数に達したため、吉村理事長が開会を宣言した。吉村理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 22 年度第 8 回常務理事会議事録（案）の確認 原案通り、承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総 務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 特になし

(2) 平成 23 年度定時総会次第(案) およびビジネスミーティング日程について [資料：総務 1]
特に異議なく、本件は了承された。

(3) 本会の理事定数を 25 名とする件について [資料：総務 2]

吉村理事長「まず次回の総会で 25 名にすることを決めて、2 名増やす場合の具体的な方法を、学会の将来を検討する新設の会議体で検討する。その検討結果を来年の 4 月臨時総会で承認を受け、定時総会で選任するということになる。その時選任された 2 名の理事の任期は 1 年とする。」

荒木事務局長「定款では役員 25 名となっているが、役員および代議員規程が 23 名のままである。この規程の変更は 2 名の選出方法と合わせて来年 4 月の総会にかけるとして、本年 6 月の定時総会では 25 名とすることを報告する、ことにしたい。」

落合副理事長「本年 6 月総会で役員および代議員規程を 25 名に変更してもよいのではないかと。」

岩下理事「その部分の変更だけに止めると、従来のブロック比例で選ぶという条項が適用されるので、比例方式で 2 名増やすことになってしまう。」

佐川議長「地域代表に加えてそれ以外のカテゴリーからの代表も入れるのであれば、ブロック比例方式だけでなく全国区制など様々な方式を広く検討してほしい。」

特に異議なく、本件は了承された。

(4) 東日本大震災の義援金について

4月22日に医会との救援対策本部会議を開催し、義援金の配分方法を決定した。[資料：総務3]
吉村理事長「義援金は1億円以上集まっているが、学会の人的支援に1500万円配分されている。当初案では日当等も計上されていたが、今回の人的支援はボランティアベースで考えるべき、とした。医会では大半の義援金は被災された診療所の先生方への支援を行うことで考えているようである。」

矢野幹事長「石巻への人的支援は、今のところ9月までの担当をお願いしているところである。これで全体で40校程度の大学にご協力をいただくことになる。」

丸尾監事「海外から多く支援を頂いているが、特にTAOGからは手厚く何度も支援を受けている。都度都度に謝意を表していただければと思う。」

落合副理事長「TAOGには理事長名で感謝状を作成して、先方に直接お渡しして来ようと考えている。」

(5) 「大気や飲食物の軽度放射性物質汚染について心配しておられる妊娠・授乳中女性へのご案内（続報）」および「同続報に係るQ&A」をホームページに掲載した。[資料：総務4、5]

(6) 「放射性ヨウ素（I-131）が検出された母乳に関して心配しておられる授乳中女性へのご案内」をホームページに掲載した。 [資料：総務6]

(7) 第67回学術集会長候補者の公募および選定委員会委員について [資料：総務7]

①第67回学術集会長候補者の公募について、

「会員へのお知らせ」をホームページ及び機関誌6月号に掲載したい。

②選定委員会委員について

吉村理事長「新執行部が決まったら、すぐに選定委員会委員を決めていただくようお願いしたい。」

(8) 各委員会の規約について、公益社団法人移行を踏まえた見直しを各主務幹事に依頼しており、6月10日の幹事会で協議する予定である。

(9) 埼玉医科大学の藤原恵一先生が、卵巣明細胞腺癌に対する新規化学療法確立のための医師主導治験を行う際に日本医師会医師主導治験支援センターに支援を申請するに当たり、本会からの推薦を求める要望書を受領した。[資料：総務8]

特に異議なく、本件は了承された。

(10) 編集担当職員の紹介派遣について

機関誌及びJOGRの編集担当育成のための職員1名の採用に関して、昨年10月から約5ヶ月程度、紹介派遣を受けたが採用には至らなかった。今回、再度7月から3ヶ月間、紹介派遣を受入れ、期待に沿う人材であれば、正規職員として採用したい。

(11) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

5月11日現在、入金済5,066冊、校費支払のため後払希望 12冊。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会 特になし

(ハ) 周産期委員会

①4月30日に日本小児科学会、日本産婦人科医会および本会で、正期産新生児の診療指針の合同会議が開催された。[資料：総務9]

吉村理事長「小児科学会で原案を作成した正期産のガイドラインは開業の先生にも影響があり、重要であるので、今後3学会で協議して仕上げていくことになった。」

②「抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」を論文等で広

く公表するに当たり、調査に協力いただいた各施設に、論文投稿についても協力いただけるよう
本会から依頼した。[資料：総務 10]

(二) 女性ヘルスケア委員会

①同委員会から親委員会の委員数を現在の6名から8名に増員したいとの要望書が提出された。

[資料：総務 11]

特に異議なく、本件は了承された。

[Ⅱ. 官庁関係]

(1) 内閣府

内閣府公益認定等委員会事務局から、東日本大震災に関して被災者支援や震災復興に向けた活動等、
各法人の取組事例を公表したいので実施している活動を記入様式に沿って提出してほしい、との依
頼があり、本会の活動をまとめて提出した。[資料：総務 12]

(2) 厚生労働省

厚生労働省医薬食品局審査管理課より、医療用医薬品の有効成分のうち一般用医薬品としての利用
も可能と考えられる候補成分についての意見提出依頼があった。10品目についてのスイッチ化に関
して特段の意見があれば7月26日までに提出するように求められている。[資料：総務 13]

(3) 文部科学省

同省研究振興局ライフサイエンス課と厚生労働省大臣官房厚生科学科の連名にて、被災地で実施さ
れる調査・研究について遵守すべき項目についての通知があった。[資料：総務 13-1]

[Ⅲ. 関連団体]

(1) 日本医学会

同会を通して、厚生労働省の検討会がとりまとめた報告書「再生・細胞医療に関する臨床研究から
実用化への切れ目ない移行を可能とする制度的枠組みについて」の周知依頼があった。HPに掲載し
て会員に周知した。[資料：総務 14]

(2) 日本医師会

日本医師会は、4月19日に文部科学省が発出した「福島県内の学校・校庭等の利用判断における暫定的
な考え方」に対しての見解を5月12日に出した。[資料：総務 14-1]

(3) 日本婦人科腫瘍学会

日本婦人科腫瘍学会より、同学会が作成した頸癌治療ガイドライン2011年版を今秋に発刊するに当たり、
本会の意見を求めてきた。本件は婦人科腫瘍委員会での検討をお願いした。[資料：総務 15]

(4) 子宮頸がん征圧をめざす専門家会議

同会議から「子宮頸がん予防ワクチンの接種スケジュールについて」のステートメントが送られて来た。
[資料：総務 16]

(5) 医療技術産業戦略コンソーシアム

同組織の未承認医療機器による臨床研究戦略会議で作成した「未承認医療機器の臨床研究実施の手
引き(案)」について、意見を求める依頼書が送られてきた。[資料：総務 17]

[Ⅳ. その他]

(1) 日本病態プロテアーゼ学会第16回学術集会長(会期：平成23年8月26~27日、会場：千里ライ
フサイエンスセンター)より、本会の後援名義使用許可依頼が送付されてきた。経済的負担もなく、
これを応諾した。

(2) 第一三共株式会社より、デュファストン錠®5mgの供給調整を行う旨の通知があり、これをHPに
掲載して会員に周知した。[資料：総務 18]

(3)NPO 法人 京都がん治療を考える会より、京都府民公開講座第 6 回「女性がん：子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん」（開催日：平成 23 年 11 月 19 日、場所：京都府医師会館）への本会の後援名義使用許可依頼が送付されてきた。経済的負担もなく、これを応諾した。

2) 会 計（和氣徳夫副理事長）

(1) 地方学会宛通知

①各地方学会宛に、1. 平成 23 年度会費、2. 過年度会費滞納者への機関誌発送停止と滞納会費納入依頼、3. 会費の送金方法、4. 入退会の取扱い、5. 住所移動などの連絡、6. 物故会員への弔電、などについて通知した。

②該当地方学会宛に、会員資格喪失の取扱いならびに対象となる 2 年以上会費滞納会員に対し会費納入の意思確認を依頼する文書を送付した。なお、事務局からも会費滞納会員に対し未納の場合会員資格喪失となる旨の文書を直接送付する予定である。

(2) 決算監査と会計担当理事会の開催

本日 5 月 20 日 12：30 から平成 22 年度の決算監査を行い、併せて会計担当理事会を開催した。平成 22 年度決算については 6 月 25 日の定時総会に諮る予定である。〔資料：会計 無番、1、2、3、4〕

和氣副理事長「今回は社団法人としての最後の決算、従来通りの 16 年会計基準で行っている。平成 22 年度決算の特徴は、学術講演会会計の期跨ぎ方式を変えたこと、サマースクールを本会事業として一般会計に計上したこと、予算では赤字であったがガイドラインの前受金により黒字決算となったことである。外部監査人からは適正に行われている旨の報告を受けている。また学術講演会会計の期跨ぎを変更したことは重大な会計方針の変更に当たるので、その理由・目的を財務諸表に記載してある。」特に異議なく、本件は了承された。

3) 学 術（吉川裕之理事）

(1) 学術委員会関連

平成 23 年度第 1 回学術委員会を 6 月 10 日に開催する予定である。

(2) プログラム委員会関連

星合第 63 回学術集会長「8 月の学術集会は 4 月に予定していた日程表と概ね同じスケジュールとなっている。公開シンポジウムを前日の日曜日に行い、この日に学術集会の参加登録を受け付けられるようにしたい。また夏の盛りであるので学術集会はノーネクタイで可としたい。さらに学術集会の延期に伴い、登録システムに IC カードを使わない方式にするなど、費用を減らす工夫を行ったことについてご了解いただきたい。」

吉村理事長「4 月予定していた日程を横滑りで進められるようになった。会員への通知はどう行うのか。」

星合第 63 回学術集会長「機関誌 7 月号や登録はがきなどで行う。」

(3) ガイドライン—産科編

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2008」頒布状況について

5 月 11 日現在、入金済 11,930 冊、後払希望 1 冊。

②「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について

5 月 11 日現在、入金済 5,728 冊、後払希望 211 冊。

(4) ガイドライン—婦人科外来編

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について

5 月 11 日現在、入金済 7,794 冊、後払希望 101 冊。

吉川(裕)理事「ガイドライン産科編の指導者講習会を 12 月 11 日に、婦人科外来編は 10 月 2 日に開催する予定である。これに対する交通費をどこまで面倒をみるか、検討中である。2 点目は、ガイドライン委員の任期は 2 年だがガイドラインの発行周期は 3 年であるため、次回からは委員の任期を

3年にしたいと考えている。最後に、学術講演会評価委員会は、評価準備の関係で従来旧委員が学術講演会を評価するが、学術講演会が8月となった今年も、旧委員が9月に評価して新学術委員会に書面報告する形にしたい。」

吉村理事長「ガイドラインについては、作成委員会も評価委員会も3年ということではどうか。」

岡井理事「ガイドライン改定の周期を3年としている理由はなにか。例えば4年ではどうなのか。」

吉川(裕)理事「他学会のガイドラインは3年周期が多く、今のガイドラインは3年後に変える、と既に示している。」

吉村理事長「最初の何回かは3年周期である必要はあるが、安定してきたら周期を伸ばすことも考えられるのではないかと。」

4) 編集 (岡井 崇理事)

(1) 会議開催

①5月20日に和文誌編集会議ならびに JOGR 編集会議を開催した。

②6月10日に平成23年度第1回編集担当理事会を開催する予定である。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: 2011年投稿分 (平成23年4月末現在)

投稿数 324 編 (うち Accept23 編、Reject95 編、Withdrawn/Unsubmitted 55 編、Under Revision38 編、Under Review 112 編、Pending 1 編、Expired 0 編)

(3) AOFOG (9月23~27日、於:台北) のアブストラクトサプルの冊子体発行の提案をワイリーブラックウェルより受領した。

岡井理事「日産婦の学会誌でもサプルメントを出して抄録を載せることも考えたい。」

(4) 会員からの要望である日本産科婦人科学会雑誌の電子図書化について、印刷所と検討を進めている。

岡井理事「6年前のアンケートでは時期尚早という意見が多かったが、再度会員の意見を聞いて、和文誌の発行形態をどうするかについて整理して進めたい。また、編集における COI であるが、和文誌については学会の指針に従うことを前提に、抄録集は COI の問題がない旨を一括記載する、また特別企画の原稿や寄稿論文を載せる場合などは COI 自己申告書を提出してもらい、という方針で、JOGR は potential COI を全ての筆者に記載させるなどの方針で臨みたい。」

吉川(裕)理事「和文誌の COI 申告に寄付金などの金額まで入れる必要はないのではないかと。」

岡井理事「金額の扱いについては、日本医学会の例などを含めて確認したい。」

5) 渉外 (落合和徳副理事長)

[FIGO 関係]

(1) 6月12日~13日、メキシコシティにて開催の FIGO 理事会に本会より落合副理事長が出席の予定である。

(2) FIGO website に本会からの義援金募集のお知らせを掲載するよう依頼した。

[ACOG 関係]

(1) Dr. Ralph Hale 宛に第63回日産婦学術講演会に於ける Exchange Program の中止を通知した。

(2) 4月30~5月4日ワシントン DC にて開催の The 59th Annual Clinical Meeting of ACOG に、本会より落合副理事長、平松第64回学術集会長、久具幹事、阪埜幹事、若手医師5名および青野事務局課長が出席した。 [資料: 渉外1]

阪埜幹事「今回初めてとなるが、ACM において本会若手医師のポスタープレゼンテーションを行った。また表彰式で平松次期集会長が VIP として紹介された。ACOG とは深い交流が続いており、若手医師に充実したプログラムを提供できる原動力となっている。」

落合副理事長「ACOG から日本への交換プログラムに参加した方が、いまや若手有力メンバーになって活躍

しており、Exchange Program が米国側でもキャリア形成に役に立っているようである。」

(3) CREOG Activities について [資料：渉外 2]

吉村理事長「専門医制度でも教育者、指導者のための教育システムが本会にはまだ不足している。これを専門医制度の今後の課題として考えてほしい。」

[SOGC 関係]

- (1) Dr. Lalonde 宛に第 63 回日産婦学術講演会に於ける Exchange Program の中止を通知した。
- (2) 6 月 22～26 日バンクーバーにて開催予定の The 67th Annual Clinical Meeting of SOGC に、本会より落合副理事長、津田幹事、および若手医師 3 名が出席の予定である。[資料：渉外 3]

[TAOG 関係]

- (1) TAOG より、4 月 20 日 US\$35,800、21 日 US\$5,500 が義援金として本会へ送金された。

6) 社 保 (星合 昊理事に代わり渡部主務幹事)

- (1) 疑義解釈委員会より平成 23 年度第 1 回供給停止予定品目について検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果を回答した。
- (2) 外保連より外保連ニュースの記事をまとめた冊子「日本の医療技術は優れている!!」を受領した。
[資料：社保 無番]
- (3) 厚生労働省医政局経済課医療機器政策室より、医療ニーズの高い医療機器等の早期導入要望に関する意見募集についての通知を受領した。[資料：社保 1]

7) 専門医制度 (櫻木範明理事)

- (1) 会議開催
 - ① 平成 23 年度第 1 回専門医制度中央委員会を 5 月 28 日に開催予定である。
- (2) 日本専門医制評価・認定機構
5 月 10 日に同機構の平成 23 年度第 1 回社員総会が開催された。
- (3) 専門医認定二次審査
面接試験担当者に平成 23 年度面接試験担当の依頼状を送付した(4 月 27 日)。
- (4) 専門医制度規約・施行細則の改定
公益社団法人化に伴い、専門医制度規約・施行細則の改定が必要になることを第 1 回中央委員会で諮り、その上で理事会、総会で承認いただきたいと考えている。
特に異議なく、本件は了承された。

8) 倫理委員会 (嘉村敏治委員長)

- (1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 23 年 4 月 30 日)
 - ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：47 研究
 - ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：583 施設
 - ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：583 施設
 - ④ 顕微授精に関する登録：504 施設
 - ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：16 施設
- (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について
5 月 6 日現在申請 229 例 [承認 195 例、非承認 4 例、審査対象外 18 例、取り下げ 1 例、照会 2 例、

審査中 9 例] (承認 195 例のうち 7 例は条件付)

(3) 会議開催

- ①平成 22 年度第 6 回着床前診断審査小委員会を 5 月 16 日に開催した。
- ②平成 22 年度第 5 回倫理委員会を 5 月 30 日に開催する予定である。

(4) 扇町レディースクリニックからの AID 実施登録施設認可申請について本学会倫理委員会登録・調査小委員会より受理通知書を送付した。 [資料：倫理 1]

(5) 「出生前に行われる検査および診断に関する見解」[改定案]ご意見について [資料：倫理2]
嘉村理事「意見を踏まえた改定案を倫理委員会で協議し、定時総会に諮る予定である。」

9) 教育 (小西郁生理事)

(1) 会議開催

- ①5 月 19 日に平成 23 年度専門医認定筆記試験問題作成委員会を開催した。
- ②5 月 19 日に SOGC 派遣予定者とコンダクターによる打合会を開催した。
- ③6 月 3 日に第 3 回若手医師企画打合会を開催する予定である。
- ④6 月 10 日に第 1 回教育委員会を若手育成委員会と合同で開催する予定である。

(2) 「産婦人科研修の必修知識 2011」頒布状況について (速報ベース)
5 月 11 日現在、入金済 3,639 冊、校費支払のため後払希望 42 冊。

(3) 「産婦人科研修の必修知識 2011」発刊について
産婦人科研修の必修知識 2011 については震災の影響等で大幅に発刊が遅れ 5 月 18 日から発送を開始したが、1 年後に電子版での発刊を予定している。書籍版産婦人科研修の必修知識 2011 購入者については巻末のクーポンを提出いただければ割引価格で電子版を購入できるように考えている。

小西理事「電子版は検索やマーカー付けなどもできるもので使い勝手の良いものである。見積りを出してもらい今後理事会にも諮って行きたい。」

(4) 第 4 回若手医師企画若手グループ委員について [資料：教育 1]

小西理事「第 64 回学術集会に向けて準備していただく予定で、海外派遣者やスプリングフォーラム参加者から 14 名のメンバーを推薦している。」
特に異議なく、本件は了承された。

10) 地方連絡委員会 (和氣徳夫副理事長)

和氣副理事長「業務委託契約書の地方学会との締結を早く進めてもらいたい。」

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (吉川史隆委員長)

(1) 会議開催

5 月 20 日平成 23 年度第 1 回広報委員会・情報処理小委員会 合同委員会を開催した。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報 1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報 2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報 3]

吉川(史)理事「3 月 36 万件、4 月 26 万件と、震災の影響で大幅に増えている。」

(5) 本会ホームページに掲載のアボットジャパン（株）のバナー広告について、2011年5月1日から2012年4月30日までの掲載延長が決定した。

2) **コンプライアンス委員会**（平松祐司委員長） 特になし

3) **医療改革委員会**（海野信也委員長）

吉村理事長「日本小児科学会との正期産新生児の診療指針についての合同会議の委員を海野先生と水上先生にお願いした。また放射性物質の母乳への影響について、厚労省が調査を行っているが本会はこれに協力している。」

4) **男女共同参画委員会**（竹下俊行委員長） 特になし

5) **若手育成委員会**（齋藤滋委員長）

(1) 「第5回産婦人科サマースクール in 美ヶ原」

会期：平成23年8月6日(土)～7日(日)

場所：長野・美ヶ原温泉ホテル翔峰

募集人数：初期研修医：200名

医学部学生：100名

(募集人数をこえた場合には抽選)

募集期間：平成23年5月20日～6月25日(学会事務局必着)

今回は応募者宛に応募書類受領書を発送する。

(2) 会議開催

①5月6日に第5回産婦人科サマースクール in 美ヶ原の打合会を開催した。

②5月20日に第5回産婦人科サマースクール若手医師企画打合会を開催する。

Ⅲ. その他

吉村理事長「現体制の常務理事会は最後になるが、業務の引継ぎをしっかりとやってほしい。前委員長の責任において申し送り事項をきちんと決めていただき、業務が円滑に進められるようにくれぐれもよろしくお願ひしたい。」

以上

資料

1. 平成 22 年度第 8 回常務理事会議事録(案)
2. 平成 23 年度第 1 回常務理事会業務担当事務報告並びに関連協議事項予定内容
- 総務 1：平成 23 年度定時総会次第(案) およびビジネスミーティング日程
- 総務 2：中期計画検討 WG 答申
- 総務 3：救援対策本部会議資料
- 総務 4：大気や飲食物の軽度放射性物質汚染について心配しておられる妊娠・授乳中女性へのご案内(続報)
- 総務 5：同続報に係る Q&A
- 総務 6：放射性ヨウ素 (I-131) が検出された母乳に関して心配しておられる授乳中女性へのご案内
- 総務 7：第 67 回学術集会長候補者の公募について
- 総務 8：卵巣明細胞腺癌に対する新規化学療法確立のための医師主導治験の推薦要望書
- 総務 9：正期産新生児の診療指針(案) 合同会議報告
- 総務 10：「抗インフルエンザウィルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」論文投稿への協力願い
- 総務 11：女性ヘルスケア委員会、親委員会委員数の増加に関する要望書
- 総務 12：公益法人等の被災者支援、震災復興の活動、寄附について
- 総務 13：医療用医薬品の有効成分のうち一般用医薬品としての利用も可能と考えられる候補成分について
- 総務 13-1：被災地で実施される調査・研究について
- 総務 14：再生・細胞医療に関する臨床研究から実用化への切れ目ない移行を可能とする制度的枠組みについて
- 総務 14-1：文部科学省「福島県内の学校・校庭等の利用判断における暫定的な考え方」に対する日本医師会の見解
- 総務 15：日本婦人科腫瘍学会頸癌治療ガイドライン 2011 年版パブリックコメントについて
- 総務 16：子宮頸がん予防ワクチンの接種スケジュールについて
- 総務 17：「未承認医療機器の臨床研究実施の手引き(案)」に対する意見募集について
- 総務 18：デュファストン錠®5mg の供給について
- 会計無番：平成 22 年度監査実施状況報告
- 会計 1：平成 22 年度収支計算書
- 会計 2：平成 22 年度財務諸表
- 会計 3：附属資料
- 会計 4：平成 22 年度収支計算説明書
- 渉外 1：59 回 ACOG Annual Clinical Meeting 報告
- 渉外 2：CREOG EDUCATION RETREAT
- 渉外 3：Statement of solidarity for Japan
- 社保無番：外保連冊子「日本の医療技術は優れている！！」
- 社保 1：医療ニーズの高い医療機器等の早期導入要望に関する意見募集について
- 倫理 1：「非配偶者間人工授精に関する登録」受理通知書
- 倫理 2：「出生前に行われる検査および診断に関する見解」[改定案]意見
- 教育 1：第 4 回若手医師企画若手グループ委員(案)
- 広報 1：JSOG-JOBNET 事業報告
- 広報 2：ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について
- 広報 3：JSOG ホームページアクセス状況

以上